

# I 平成29年度事業報告書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

当財団は、埼玉会館及び彩の国さいたま芸術劇場の指定管理者として、平成27年度から5年間の指定を受け、質の高い舞台芸術作品を創造、発信するとともに、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を引き続き実施してきた。

平成29年度は、演劇部門では、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」において、同シリーズ2代目芸術監督に就任した吉田鋼太郎の演出・主演によるシリーズ第33弾『アテネのタイモン』を上演したほか、故蜷川幸雄芸術監督の追悼公演として3作品を上演した。また、児童・青少年向けの演劇作品を公演する等、幅広い世代が演劇に触れる機会を提供した。

舞踊部門においては、世界的に活躍する振付・演出家による最新作や国内外で活躍するアーティストによる、多彩な身体表現の可能性を探る作品を提供したほか、中学生を対象に普及教育を目的としたアウトリーチ事業を実施した。

音楽部門においては、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用した公演のほか、気軽に足を運べる無料コンサートの開催、音楽を小・中学校の子供たちへ届けるアウトリーチ事業の実施など、参加・育成を目的とした事業も展開し、多様な音楽ニーズに応えた。

その他、劇場空間に親しんでいただく「劇場見学ツアー」を行うなど、地域の舞台芸術に対する関心・理解を深めるための事業に引き続き取り組んだほか、高齢者の芸術活動を促進する「世界ゴールド祭 キックオフ!」や、高齢者による舞台芸術参加を促進するプログラムである「ゴールド・アーツ・クラブ」の立ち上げを県からの委託により実施した。

埼玉会館では、リニューアル・オープン記念事業として、各種コンサートや狂言公演など、地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を実施した。

また、施設利用に関しては、安心・安全に万全を期した適正な管理を行うとともに、アンケートの意見等に迅速に対応したほか、財団ホームページ更新に伴い、利用者への広報を充実するなど、利用者サービスの更なる向上に努めた。

## 1 事業の概要

### (1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

#### ア 自主企画公演等及び国内外との交流（61事業）

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供した。

また、埼玉会館では、地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を実施した。

#### (ア) 彩の国さいたま芸術劇場（53事業）

##### a 演劇部門

当劇場の看板シリーズである「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、同シリーズ2代目芸術監督に就任した吉田鋼太郎が12月に第33弾として、自身の演出・主演による悲劇『アテネのタイモン』を上演した。

故蜷川幸雄芸術監督が設立した高齢者演劇集団さいたまゴールド・シアターは、9月に岩松了を作・演出に迎え、約6年ぶりとなる書き下ろし新作『薄い桃色のかたまり』を上演した。

また、故蜷川幸雄芸術監督の功績を称え、追悼公演として、4月に『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』、7月に『NINAGAWA・マクベス』（共催）、3月に『ムサシ』（共催）を上演した。

次代を担う演劇人の取組として、7月に藤田貴大が率いる「マームとジプシー」の10周年記念公演を行った。また、県内在学・在住の中学生以上20歳以下の公募出演者ととともに藤田自身の旧作『ハロースクール、バイバイ』を新演出で上演した。

児童・青少年向けの演劇作品として「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」との連携により児童劇『Mr. バンクの魔法のガラクタ ～石・棒・折れた骨 Sticks Stones Broken Bones』を上演し、あらゆる世代が鑑賞できる機会を設けた。

「松竹大歌舞伎」は、平成28年度に引き続き（公財）熊谷市文化振興財団との共催公演として熊谷文化創造館さくらめいとで7月に実施した。

事業名	実施時期	会場
『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』	4月	大ホール
マームとジプシー結成10周年記念公演 『10th Anniversary Tour』	7月	小ホール
『NINAGAWA・マクベス』【共催】	7月	大ホール
藤田貴大ワークショップ公演『ハロースクール、バイバイ』	7月	大稽古場
松竹大歌舞伎	7月	熊谷文化創造館さくらめいと
児童演劇公演『Mr. バンクの魔法のガラクタ～ 石・棒・折れた骨 Sticks Stones Broken Bones』	8月	小ホール
さいたまゴールド・シアター第7回公演『薄い桃色のかたまり』	9月～10月	大ホール
彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾『アテネのタイモン』	12月	大ホール
『ムサシ』【共催】	3月	大ホール

#### b 舞踊部門

世界的に活躍する振付・演出家の最新作や国内外で活躍するアーティストによる、多彩な身体表現の可能性を探る作品を提供した。

主催公演として、国内からは、昨年結成20周年を迎え、ますます意欲的な活動を展開するとともに、埼玉では11回目の登場となる近藤良平が率いる人気のダンスカンパニー「コンドルズ」による埼玉だけの新作公演『17's MAP』を5月に上演した。

海外からは、10月にイスラエルを代表する振付家オハッド・ナハリン率いるバットシェバ舞踊団を迎え、2015年のカンパニー最新作『LAST WORK』を国内初上演した。

また、1月には、世界的に活躍する振付家ジェローム・ベルによる話題作『Gala』を国内初上演した。本作品はダンスのプロ／アマチュアを問わず、子供から大人まで、幅広い年齢のキャストを日本国内で募集して日本版／埼玉版として上演した。

そのほか、平成26年度から実施している振付家、ダンサーによる、県内中学校の生徒を対象にしたアウトリーチ事業「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」を引き続き実施した。

共催公演としては振付家金森穰が率いる新潟りゅーとびあを拠点とするプロフェッショナル・ダンス・カンパニー「Noisml」の新作及び初期の代表作を上演した。さらに、国内外の振付家・ダンサーに今なお大きな影響を与える舞踏家 故大野一雄をモチーフとした『大野一雄について』（ダンサー：川口隆夫）と、大野一雄自身が

踊る映像作品等の公開を実施した。また、ダンサー及び振付家として活躍する平山素子とパーカッショニスト加藤訓子によるダンスと音楽によるデュオ公演『DOPE』も実施した。

事業名	実施時期	会場
コンドルズ埼玉公演 2017 新作『17's Map』	5月	大ホール
Noism1 新作『Liebestod－愛の死』／レパトリー『Painted Desert』【共催】	6月	大ホール
バットシェバ舞踊団『LAST WORK』	10月	大ホール
川口隆夫『大野一雄について』【共催】	12月	小ホール他
ジェローム・ベル『Gala』	1月	大ホール
Noism1『NINA - 物質化する生け贄 (ver.black)』【共催】	2月	大ホール
MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！	9月・12月	県内中学校
平山素子・加藤訓子ダンス公演『DOPE』【共催】	2月	小ホール

#### c 音楽部門

音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施した。また、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業も併せて展開した。

11年目を迎えた、若手の中でも選りすぐりのピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」、及び同シリーズの「アンコール！」公演を継続実施したのに加え、4年目を迎えたリサイタル・シリーズ「次代へ伝えたい名曲」では、出演者によるアフタートークや関連プログラムを開始し、次世代の育成に資するべく内容の充実を図った。

世界最高級の演奏を鑑賞できる機会としては、毎年恒例のバッハ・コレギウム・ジャパン公演のほか、ヴァイオリニストのレオニダス・カヴァコス、木管五重奏のアンサンブル・ウィーン=ベルリンの公演を実施した。バッハ・コレギウム・ジャパン公演に際しては関連レクチャー、アンサンブル・ウィーン=ベルリン公演に際してはメンバーによるアンサンブル・クリニックを行った。

なお、前年度に引き続き共催として、埼玉県在住で日本を代表するピアノデュオ ドゥオールによるデュオセミナーを開催した。

一方、誰でも気軽に音楽に触れられる機会を提供するため、ポジ

ティフ・オルガンを活用した無料のミニ・コンサート「光の庭プロムナード・コンサート」、オルガンを通じて音楽の普及啓発を図る「みんなのオルガン講座」を継続開催した。なお、従来「みんなのオルガン講座」の一環として開催してきたレクチャーは内容の充実を図り、2回の内1回をレクチャー・コンサートとして音楽ホールで開催することで、より幅広く関心を喚起した。

また、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も引き続き実施した。

事業名	実施時期	会場
バッハ・コレギウム・ジャパン J. S. バッハ 《マタイ受難曲》(関連レクチャー開催)	4月	音楽ホール
次代へ伝えたい名曲(第10回～第12回) (10回はアフタートーク、11・12回は関連ワークショップ開催)	5月～12月	音楽ホール
オルガン・レクチャー/大塚直哉レクチャー・コンサート	5月・8月	音楽ホール他
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.7 上原彩子	6月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル	8月	情報プラザ
アンサンブル・ウィーン=ベルリン (アンサンブル・クリニック開催)	9月	音楽ホール
レオニダス・カヴァコス ヴァイオリン・リサイタル	11月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.33 パヴェル・コレスニコフ	1月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート	通年	情報プラザ
みんなのオルガン講座	通年	大練習室他
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる!	通年	県内小学校
ピアノデュオ ドゥオール デュオセミナー【共催】	8月	音楽ホール他

#### d その他

好評の「彩の国さいたま寄席」(年4回)を引き続き実施した。

また、劇場空間に親しんでいただく「劇場見学ツアー」や高齢者の芸術活動を促進する「世界ゴールド祭 キックオフ!」を実施した。

さらに、県内高等学校の生徒及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会を実施するとともに、埼玉大学の講座への協力、大学生インターンシップを積極的に受け入れるなどして、地域との連携を深めた。

事業名	実施時期	会場
彩の国さいたま寄席	4月～1月	小ホール
埼玉大学アートマネジメント講座	4月～6月	埼玉大学他
舞台技術講座	8・2・3月	大ホール他
世界ゴールド祭 キックオフ！	9月	小ホール他
劇場見学ツアー	8月・1月	大ホール他
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場

#### (イ) 埼玉会館（8事業）

埼玉会館では、平成29年4月から12月まで「埼玉会館リニューアル・オープン記念事業」を実施し、4月には、大谷康子と東京交響楽団室内合奏団によるアフタヌーン・コンサートのほか、野村万作・萬斎による狂言公演を実施した。

また、大ホールの特性を活かしたフルオーケストラ公演として毎年好評を博しているNHK交響楽団公演を継続して実施した。

加えて、大人から子どもまで幅広い年齢層を対象にしたファミリー・クラシック、平日昼間のランチタイム・コンサートも引き続き開催し、親しみやすい音楽の鑑賞機会を広く提供するとともに、新たな鑑賞者層の開拓に取り組んだ。これらの事業は地元商店街とのタイアップなど、より地域と密着した展開を図った。

事業名	実施時期	会場
アフタヌーン・コンサート「大谷康子と東京交響楽団室内合奏団」	4月	大ホール
春陽狂言「万作・萬斎の世界」	4月	大ホール
埼玉会館ランチタイム・コンサート(第31回～第34回)	6月～3月	大ホール
埼玉会館ファミリー・クラシック「夏休みオーケストランド！」	7月	大ホール
NHK交響楽団リオ・クオクマン(指揮) 小曾根真(ピアノ)	10月	大ホール

## イ 埼玉の魅力を発信する文化プログラム

これまで県障害者福祉推進課との共催で制作・上演してきた「近藤良平プロデュース 障害者ダンスチーム ハンドルズ」について、初の県外公演を県委託事業として石川県金沢市で行った。

高齢者による舞台芸術参加を促進するプログラムとして、「1万人のゴールド・シアター2016」の一般出演者を対象にした年間プログラム「ゴールド・アーツ・クラブ」を県委託事業として立ち上げた。

## ウ 広報に関する事業

### (ア) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ガレリア等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を行った。

#### a 故蜷川幸雄芸術監督の追悼 企画展

(4月11日～7月31日 ガレリアにて開催)

故蜷川幸雄芸術監督への追悼の意を込めて、当劇場で演出した作品の舞台写真を展示した。

#### b 大野一雄企画展示「モダンダンスから舞踏へ」

(11月3日～12月3日 情報プラザ・ガレリアにて開催)

川口隆夫による『大野一雄について』の公演に合わせて、大野一雄の写真、ポスター、草稿などのアーカイブ資料を展示した。

#### c 吉田鋼太郎 彩の国シェイクスピア・シリーズ舞台写真展

(12月5日～1月9日 ガレリアにて開催)

同シリーズ2代目芸術監督の吉田鋼太郎が出演した「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の舞台写真を『アテネのタイモン』の公演期間に合わせて展示した。

### (イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころを、より分かりやすく伝えるとともに、財団の各種ご案内等の様々な情報を掲載し、読みやすく、かつ充実した内容となる

よう、編集を行った。

- a 発行回数、部数 年6回 各12,000部発行
- b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

(ウ) メンバーズ事業

会員に財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」を送付するほか、顧客の定着化とチケットの販売促進のため、主催事業のチケットの優先予約や割引販売などを行った。

メンバーズ会員数 4,926人（平成30年3月末現在）

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し財政面で支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」の運営を行うとともに、会員の拡大を図った。

サポーター会員数 119社（者）（平成30年3月末現在）

エ 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、DVD等を収集し、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開した。

（単位 点）

	資料総数	左記にかかる分野ごとの内訳				
		演劇	舞踊	音楽	映画	その他
書籍	11,142	2,233	616	2,790	712	4,791
CD	11,031	9	77	10,563	0	382
映像	2,972	393	483	1,701	173	222

(2) 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、多様なニーズに対応するとともに、施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設の貸与を行った。

ア 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、稽古場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を



踏まえた改善を実施するなど、利用者サービスの充実に努めた。

ホール利用においては、貸館セクションと舞台技術セクションの連携を図ることで、技術的な提案を実施するなど、利用者の問い合わせや要望に対し、適切かつ迅速に対応した。また、「劇場等演出空間の運用及び安全に関するガイドライン」を引き続き配布し、利用者の安全に対する意識向上にも取り組んだ。

施設利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対する代替日の斡旋や、施設の利用歴がある団体等へキャンセル情報の提供などに努めたほか、他県自治体や文化施設、県内大学、近隣小学校等の施設見学を積極的に受け入れた。

また、財団ホームページ内の施設利用専用ページにおいて、施設利用者への各種案内を即時に行ったほか、ホール催物のチラシを掲載するなど、利用者サービスの向上を図った。

一方、電気料金の値上がりへの対策も含め、空調機の停止や間欠運転（電力ピーク時）、照明の間引き、空調の温度設定や運転時間の調整などの節電に努めた。

総来場者数 338,935人

#### 施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	1,088	837	76.9
稽古場・練習室	3,810	3,514	92.2
計	4,898	4,351	88.8

#### イ 埼玉会館

約1年半の大規模改修工事を経て、4月1日にリニューアル・オープンした埼玉会館の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえた改善を実施するなど、利用者サービスの充実に努めた。アンケートにおいては、利用者の声を広く積極的に収集するため、内容を見直し、回答しやすい体裁に改訂した。

新しい埼玉会館として、より充実した利用者サービスを提供するため、

財団職員及び施設管理・レストラン等のスタッフによる全体会議を毎月実施し、改修工事で解消されなかった課題や利用者の要望などを共有することで、連携しながら改善に取り組んだ。

また、施設の利用促進を図るため、ホール抽選会の落選者にキャンセル情報を随時提供した。このほか、利用者の負担軽減のため、展示室、会議室の抽選に先立って、利用希望を受け付ける期間を設け、利用希望が重複した場合は事前に調整を行い、利用者が予約開始日の抽選のために来館する必要が無くなるよう図った。そのほか、会議室においては、Wi-Fiサービスの提供を開始し、利用者の利便性向上を図った。

さらに、フェイスブックとインスタグラムによるSNSを活用した情報発信を新たに展開し、情報発信による利用促進を図った。

総来場者数 587,245人

#### 施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	656	578	88.1
展示室	1,000	549	54.9
会議室	6,167	3,862	62.6
計	7,823	4,989	63.8

### (3) 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

芸術文化に係る事業を推進するために、次の付帯事業を実施した。

#### ア 各種の活動及び発表の場の提供

多目的ホールである埼玉会館においては、芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行った。

#### イ 駐車場及びレストランの管理運営

施設利用者の便宜を図るため、有料駐車場を管理運営した。

平成29年度から、レストラン運営について、これまでの県の行政財産使用許可から当財団による管理に切替え、レストラン営業に加え、施設利用者の要望に沿った懇親会やパーティーの開催、弁当・コーヒー等のケータリングなどサービスの充実に努め、施設の賑わい創出を図った。

#### ウ その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、県の行政財産使用許可を得た上で、飲料販売業者と契約し、自動販売機を設置した。

また、施設内及び敷地内での写真や動画の撮影等について、一般の施設利用との調整を図りながら、積極的に受け入れたほか、彩の国さいたま芸術劇場では、タクシー運行业者と契約し、タクシー電話を設置した。

#### エ 埼玉会館のブランディング事業

全国に誇れる価値を持つ「埼玉会館の歴史と建物」を発信するため、ブランディング事業として、建築セミナー「『ル・コルビュジエと前川國男と埼玉会館』～近代建築が現代に語るもの～」を5月に大ホールで開催したほか、JR東日本のさいたまエリア宣伝キャンペーン＜美タテモノめぐり＞や内閣府等が主唱する「女性に対する暴力をなくす運動」の建物のパープルライトアップに協力するなど、前川建築や埼玉会館への関心を醸成するとともに、芸術文化や施設利用の推進を図った。

#### オ 賑わい創出と活性化のための地域連携事業

埼玉会館では、地域社会との連携により賑わい創出と活性化を図るため、町内会のお祭りへの協力、商店会と合同で「県庁通りイルミネーション」の設置、財団自主事業の観客に対し地元商店の協力を得て各種サービスの提供を行った。

また、3月に地元浦和地区で開催された美術展「美術と街巡り・浦和」において、「公共空間と美術－埼玉会館エスプラナード展」を共催することで、エスプラナード（屋外）への美術作品展示を展開し、施設の公共空間を活かした新たな賑わいを創出した。本展示においては、美術家や美術評論家らが前川建築とのコラボレーションについて語るトークイベントも開催し、ブランディング事業推進の一助とした。

## 2 理事会・評議員会の開催

当財団の事業計画、予算、決算の承認、事業の状況報告等を行うため、理事会を3回（5月、6月、3月）、評議員会を4回（6月、12月、3月〔2回〕）開催した。

### 3 役職員に関する事項

#### (1) 役員数 (平成30年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1	1	
専務理事	1	—	1	県派遣 1
理 事	2	4	6	県派遣 1
監 事	—	2	2	
計	3	7	10	県派遣 2

#### (2) 職員数 (平成30年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
部長・館長	2	—	2	
参 事	3	—	3	
グループリーダー 課長・副参事	4	—	4	県派遣 1
主 査	14	—	14	県派遣 4
主 任	18	—	18	
主 事	4	—	4	
技 師	2	—	2	
プロデューサー	—	1	1	
参 与	—	1	1	
その他非常勤職員	—	1	1	
計	47	3	50	県派遣 5